

沖繩平和祈念堂

THE OKINAWA PEACE HALL



世界平和の殿堂

第二次世界大戦で最後の激戦場と化した沖縄は、老幼婦女子を巻き込み、軍民あわせて20余万にのぼる尊い人命を失いました。悲惨な戦争は二度と繰り返すまじー沖縄県民のこの悲痛な願いを結集して、沖縄平和祈念堂は昭和53年10月1日開堂しました。

戦争の無益さ、平和の尊さ。その証しの地摩文仁の丘に

そびえたつ祈念堂。正七面体角錐型の堂宇は、七つの海と合掌の形を表わし、人種や国家、思想や宗教のすべてを超越して、世界に平和を訴える壮大なモニュメントです。

- 延建築面積 1,571
- 高さ 45m
- 鉄骨鉄筋コンクリート造り



平和の礎刻銘者名簿が胎内に納められています。



“平和の礎”^{いしじ}を向かいに 平和祈念堂の向かいには、終戦50周年を記念して沖縄県が建設した平和の礎があります。国籍、軍人、

非軍人を問わず沖縄戦で亡くなられたすべての人々の氏名が刻まれたこの記念碑と一体となって摩文仁の地から平和の尊さを訴えています。

平和祈念モニュメント

祈念堂正面入口の横には、開堂時に全国公募した「ハガキによるあなたの平和論」の入選作3点を刻んだモニュメントが設置され、ゆきかう人々に平和の意義を問いかけています。



平和学習・慰霊行事の場として

800人を収容できる堂内は、修学旅行で訪れる高校生などによる平和学習、各種団体による慰霊行事が盛んに行われています。これらの集いには、講話・記録映画の上映などの協力を積極的に行っています。



沖縄平和祈念像 ○高さ12m ○幅約8m
“美と平和の殿堂” 沖縄平和祈念堂

沖縄平和祈念堂は、沖縄県民はじめ全国民の平和願望、戦没者追悼の象徴として建設されました。堂内には、沖縄県下の各市町村及び学童による募金活動の支援を受けて、沖縄が生んだ傑出した芸術家山田真山氏が18年余の歳月をかけて原型を制作した沖縄平和祈念像が安置されています。このほかにも西村計雄画伯が平和への思いを込めて制作された絵画「戦争と平和」(20点連作、各300号)が堂内の壁面を飾り、敷地内には彫刻家佐藤忠良氏制作によるブロンズ製の「少年」の像をはじめ祈念堂の理念に賛同された日本画壇の第一線で活躍する画家から贈られた大作を展示する美術館などを設置しています。沖縄平和祈念堂は“美と平和の殿堂”として沖縄県が建設した“平和の礎”と一体となって摩文仁の地から世界に向けて平和の尊さを訴えています。

平和の鐘

昭和53年の開堂時に沖縄平和祈念堂の理念に賛同したライオンズクラブ国際協会337複合地区から寄贈されました。世界の恒久平和を祈念して、平和を祈念する行事などの催しの時に打ち鳴らします。「戦いに散った魂を鎮め 人類の悠久平和を誓い この平和の鐘は とほに絶えることなく 四方に響きわたる ここ摩文仁の丘より 万人の祈りをこめて」の銘文が刻まれています。



清ら蝶園

国内最大の蝶・オオゴマダラの飼育蝶園です。神秘的な黄金の蛹から羽化するこの蝶は、羽を広げると13に達します。ギリシャ語で蝶のことをプシュケ(魂)といいます。ここで育ったプシュケが、戦没者を追悼し世界平和の実現を祈る平和祈念像の使者として訪問者を優しく迎え、無言のうちに命の尊さと平和の大切さを訴えます。



**連作絵画
「戦争と平和」**

堂内の壁面を飾る20点の連作絵画は、西村計雄画伯が制作しました。昭和53年に初めて沖縄を訪れた西村画伯は、沖縄の抱える暗い過去と、それとは対照的な現在に伝わる素晴らしい文化、美しい自然、人びとの温かい心に触れて、連作絵画の制作を決意されました。以来7年の歳月を要して完成したこの絵画は、すべて沖縄を題材に描かれ、平和を願う沖縄県民の心が表現されています。



・20点連作 (各300号、写真は第1作「沖縄に熱き想いを」)

平和祈念像と山田真山画伯について

沖縄平和祈念堂に安置されている沖縄平和祈念像は、沖縄出身の偉大な芸術家山田真山画伯(1885~1977)が全戦没者の追悼と世界平和を希う沖縄県民の心を一身に担い、晩年の全生涯を捧げて制作されました。高さが約12メートル、幅が約8メートルの人間の祈りの姿を象徴した座像です。宗教や思想、政治や人種、あるいは国を超えてすべての人が戦没者の慰霊と平和の一点に力を合わせていこうということをも10本の指を合わせた合掌の形に表現されています。

特に、この像は沖縄の風土が生んだ世界に例のない独特の伝統的漆工芸技法でつくられております。琉球漆器には漆に粉の絵具(顔料)を混ぜた堆錦(ついきん)という漆の餅を作り、その堆錦で漆器に装飾を施す独特の技術があります。山田画伯は、本来平面的に使われてきたこの堆錦技法を立体的な彫刻に活かす技術を研究開発され、この平和祈念像を堆錦、すなわち漆そのものでつくりあげました。堆錦は気候条件に極めて敏感であり、沖縄以外の土地でこのような像を作り上げることは殆ど不可能であると言われております。使われた漆の量は3.5トンドで中国から輸入しました。

像の頭上には、戦没者の御霊が宿る宇宙空間を象徴する群星(むりぶし)が輝いており、7つの海を表す7本の柱が像を開いております。また、像の台座地階には世界各地から寄贈された平和への祈念を込めた霊石が奉納展示されています。

山田画伯は、1906年東京美術学校(現在の東京芸術大学)に入学、彫刻と日本画を専攻。卒業後1910年清国の北京芸術学堂の講師として赴任し、約2年間中国に滞在しました。帰国後中央美術界の第一線で活躍し、日本芸術界に大きな足跡を残しております。その代表作は明治神宮記念絵画館に収蔵されております。

1940年沖縄に帰郷し、沖縄戦を身をもって体験しました。この戦争で長男と三男を失っています。二度と再び戦争を繰り返してはならないという平和への悲願を込めて1957年(昭和32年)にこの像の制作を発表した時、全県民が賛同し、とりわけ県内の小・中・高校生も拠金して応援しました。山田画伯は、72歳の高齢をおして独力でこの大事業に取りかかり、原型が完成した時には90歳を迎えておりました。満18年の原型制作の過程で2回の転落事故に遭遇されましたが、その都度奇跡的にこれを乗り越えられました。この像には画伯の平和への執念が深く刻まれています。



山田真山画伯



群星(ムリブシ)

無限に広がる宇宙空間の中に神秘的な像を表現するため、その聖像の頭上にダイヤモンドカットしたクリスタルガラスが、美しい星空のように輝いています。



沖縄平和祈念像讃歌

(渡久地政信 作詞・作曲)
 諸人の希い 天地も輝く
 いまみなが里に 評いを捨てん
 見よ白雲の果て 聖なる空に
 沖縄の風 さやかに歌う

山田真山画伯は、平和への願望は人類共通の悲願であるとの信念から平和祈念像を精神的に全世界的基盤の上に建立することを希望されました。これを具現する方途として、日本全国はもとより世界各地から平和への祈りを込めて寄せられた霊石が、平和祈念像の基底として台座の地階に納められています。



世界各国の霊石

美術館(堂内前室・美術展示室)

沖縄平和祈念堂の理念に賛同された日本画壇の第一線で活躍する画家から寄贈された大作を展示しています。昭和56年、沖縄県内初の美術館(開館当時)として開館しました。“美と平和の殿堂”としての一翼を担うと共に沖縄県の芸術文化の振興に大きく貢献しています。



展示テーマをもとに絵画の入替を行います。

収蔵作家

秋元清弘、安次富長昭、安次嶺金正、安部英夫、新井康須雄、荒木尚、石嶺伝郎、稲垣久治、井上圭史、井口由多可、今井ロレン、大嶺政寛、大嶺政敏、角谷、幸島一留、北村謙、工藤和男、久場とよ、熊谷建四郎、小坂正次、児玉幸雄、小松明、斎藤政一、阪本修次、佐間田敏夫、柴原肇、須藤初雄、高瀬三郎、高田正二郎、高藤義雄、玉郎正吉、鎮西直秀、寺井重三、富谷一明、中畑神人、中吉照雄、野見山親治、堀賢三、浜口美和、原良次、樋口善一、日高浩輝、藤本東一良、松尾洋明、三浦俊輔、宮城健盛、宮崎万平、村田省蔵、森崎幸、山崎翠祥、山里水吉、大和修治、山本雅隆、与儀達治、横山申生、吉村明峰、渋谷山朝典、渡辺啓一、渡辺芳文、山元恵一、安谷屋正義、立川広己

「少年」の像

沖縄戦で散った前途ある少年たちの死を悼み慰め、平和の礎とするため、沖縄の復帰10周年を機に全国の子供たちの協力を得て設置しました。

- ・ブロンズ製、高さ1.62m
- ・佐藤忠良氏 制作



● 主な行事



モーツァルトレクイエムコンサート(6月)



こどもまつり(5月5日)



沖縄全戦没者追悼式前夜祭(6月22日)



摩文仁・火と鐘のまつり(12月31日~1月1日)

● 定期観光バス(南部戦跡コース) 通年毎日運行(沖縄バス)



■ 参観料 (開堂時間 ※年中無休 午前9時~午後5時)

区分	種別	
	個人	団体
大人	450円	350円
中・高校生	350円	250円
小学生以下	無	料

公益財団法人 沖縄協会

Ⓐ 沖縄平和祈念堂

本部 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-7-3 文楽小川町ビル 3階
TEL(03)5283-5111 FAX(03)3219-1550
沖縄事務所 〒901-0333 沖縄県糸満市字摩文仁448-2
TEL(098)997-3011 FAX(098)997-2678
ホームページ URL <http://kinendo.okinawakyoukai.jp>